

<年頭のご挨拶>

新年、あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃より日本医療検査科学会への様々なご支援をいただき、心から御礼申し上げます。

皆様もご存じのように、去年は新型コロナウイルス感染症で始まりました。去年の1年間ほど短く感じた年もございません。プリンセスダイヤモンド号の横浜入港は、国内でまだ感染拡大前の2月の出来事でしたが、その後の1か月で状況は急激に変化していきました。PCRへの需要の爆発的な増大、検査試薬や感染防止のためのマスクやガウンの品薄、様々な集会の計画変更など、速やかな判断と対応が求められる場面が連続する毎日でありました。昨年春に予定しておりました第35回日本医療検査学会春季セミナーは新型コロナウイルスの第一波で本年に延期となり、第52回大会およびJACLaS EXPOにつきましては、ウェブ上のオンデマンド開催となりました。会員諸兄、関連企業の皆様からは、最先端テクノロジーに触れ、様々な情報交換が行える現地開催に大きな期待を寄せられておりましたが、本学会、JACLaS、そして学会開催に携わる関係者が日々検討を重ね、努力した中での決定であったことをご理解いただきたく思います。第52回大会は本学会にとって初めてのオンデマンド形式の開催となりました。職場にいながら、あるいはご自宅で参加できることや、現地開催では重なってしまうプログラムにも網羅的に参加できるなどオンデマンド形式ならではの利点もあり、我々にとりましても貴重な経験となりました。社会状況が目まぐるしく変化する中で、初めての形式の学会を成功させていただいた慶應義塾大学病院 横田浩充会長はじめ学会運営に尽力された皆様にあらためて心から御礼申し上げます。

本年は日本医療検査科学会では、第35回日本医療検査学会春季セミナーが琉球大学・前田士郎会長のもとで4月18日に沖縄において、そして第53回大会は長崎大学・柳原克紀会長のもとで10月8日から横浜にて開催に向けて準備を進めております。With Coronaの生活様式やイベント開催のノウハウも浸透してきたところであり、十分な対策のもとで現地開催とし、会員諸兄の貴重な情報交換と最新テクノロジーの体験の場といたく存じます。去年は新型コロナウイルス感染症流行に伴い、世界的に新たな抗原、抗体検査が市販されました。また、PCR検査についても精度、結果の解釈、検査の意義付け、検査料金、検査スタッフの負担などあらゆる側面が社会から注目されました。今ほど医療の中で「検査」の重要性が認識されている時期は珍しいのではないかと感じております。世界が注目する中で、検査科学が新型コロナウイルスの克服に貢献し、明るく活気に満ちた年となることを心より願っております。

皆様にとりまして良い年となること、そして何よりも皆様とご家族が健やかに過ごされますことを祈願し、新年のご挨拶とさせていただきます。

理事長 萱場広之